



神原 里佳
オリエンタルランド
取締役常務執行役員

新しい旅の醍醐味

もともと大自然を求めて旅をすることが好きでしたが、私の旅のスタイルを大きく変えたのがサバンナでの出会いでした。

土の香り、果てしなく広がる空、草食動物が草を食む音。五感を刺激する全てのものに心をわしづかみにされ、それからアフリカの大地に呼び戻されるように通い続けました。

行き始めのころは野生動物の写真を撮ることを目的に旅をしていましたが、そんな私にいつごろからか「おかえり」と言ってくれる“Joshua”というマサイ族の友人ができました。出会ったころは、なかなか言葉が通じなくて満足にコミュニケーションが取れなかったのですが、英語、スワヒリ語、彼に教わったマサイ語を混ぜながら地道なコミュニケーションを積み重ねていくうちに、年に一度会ってお互いの近況を語り合うことが旅の目的になっていきました。初めは彼らの文化や部族としてのこだわりへの興味からでしたが、何度も話していくうちに人として何を大切にしているのか、お互いの

夢にまで話題が広がり、気が付けば言葉のハードルは下がっていました。時々、彼の指摘が鋭くて、返す言葉が見つからないケースはありますが。

普段、時間に追われた生活を送っている私には、ゆったりと流れていくサバンナの時間が本当に心地良くて、素の自分になって会話をするひとときが、旅の大きな楽しみになりました。

この出会いをきっかけに私の旅の目的が自然や動物から人へと広がっていきました。今では少数部族が生活する場所を選んで旅先を決めるようになり、仕事にはまったく使えませんが、いろんな部族語を覚えたいと小さな目標ができました。

メールが世界中を行き交う世の中ですが、わざわざ時間をかけてでも会いに行く旅のスタイルをこれからも大切にしていきたいと思います。そのためにも一日も早く自由に旅ができる日々が戻って来ることを願ってやみません。



ケニアには40余りの民族が存在しており、マサイ族はケニアとタンザニアの国境辺りに住む



キリマンジャロをバックにした朝の風景